

パロキセチン錠の生物学的同等性に関する資料

ニプロ E S ファーマ株式会社

パロキセチン錠 20mg 「タナベ」

パロキセチン錠 20mg 「タナベ」(試験製剤)について、「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」(医薬審第 487 号：平成 9 年 12 月 22 日、薬食審査発第 1124004 号：平成 18 年 11 月 24 日一部改正)に準拠して、生物学的同等性試験を実施した。

試験製剤(Lot No. VFRA)と標準製剤(先発医薬品)をそれぞれ 1 錠パロキセチン 20mg (パロキセチン塩酸塩水和物として 22.76mg 含有)、2 剤 2 期クロスオーバー法(休薬期間：7 日間)により健康成人男子(計 13 名)に 10 時間以上の絶食後、150mL の水とともに単回経口投与した。投与前(0 時間)、投与後 1、2、3、4、5、6、7、9、12、24、48 および 72 時間の計 13 時点で、前腕部皮静脈から 1 回につき 7mL の血液(血漿として 2.5mL 以上)をヘパリン加真空採血管で採取した。

採取した全ての血液を遠心分離し、得られた血漿中のパロキセチン(未変化体)濃度を LC/MS/MS 法により測定した(定量限界：0.050ng/mL)。得られた濃度値から下表に示す如く薬物動態学的パラメータを算出した。なお、下図には平均血漿中パロキセチン濃度推移を示す。

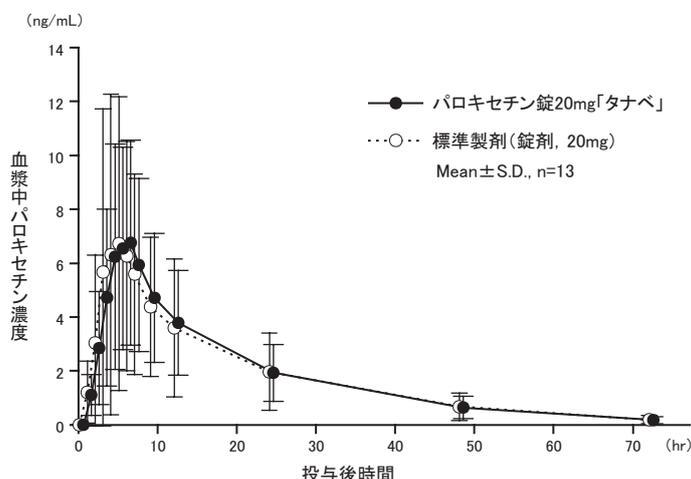
両剤の Cmax および AUC₀₋₇₂ の対数値の平均値の差の 90%信頼区間は、それぞれ log(0.8966) ~ log(1.2320) および log(0.9552) ~ log(1.2269) であり、いずれもガイドラインの基準である log(0.8) ~ log(1.25) の範囲内であった。

以上の結果より、試験製剤と標準製剤は生物学的に同等であると判定した。

<パロキセチン錠 20mg 「タナベ」> (平均±標準偏差, n=13)

	パロキセチン錠 20mg 「タナベ」	標準製剤(錠剤, 20mg)
Cmax (ng/mL)	7.077±3.984	7.368±5.939
AUC ₀₋₇₂ (ng・hr/mL)	129.548±70.296	129.250±94.533
AUC _{0-∞} (ng・hr/mL)	133.150±72.671	133.487±97.321
Tmax (hr)	5.46±1.05	5.54±1.51
MRT (hr)	20.32±2.80	21.45±3.89
kel (hr ⁻¹)	0.0511±0.0066	0.0476±0.0078
t _{1/2} (hr)	13.77±1.82	14.95±2.57

Cmax：最高血漿中濃度、AUC：濃度-時間曲線下面積、Tmax：最高血漿中濃度到達時間、MRT：平均滞留時間、kel：消失速度定数、t_{1/2}：消失半減期



パロキセチン錠 10mg 「タナベ」

パロキセチン錠 10mg 「タナベ」(試験製剤)について、「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」(医薬審第 487 号：平成 9 年 12 月 22 日、薬食審査発第 1124004 号：平成 18 年 11 月 24 日一部改正)に準拠して、生物学的同等性試験を実施した。

試験製剤(Lot No. VFQB)と標準製剤(先発医薬品)をそれぞれ 1 錠パロキセチン 10mg (パロキセチン塩酸塩水和物として 11.38mg 含有)、2 剤 2 期クロスオーバー法(休薬期間：9 日間)により健康成人男子(計 20 名)に 10 時間以上の絶食後、150mL の水とともに単回経口投与した。投与前(0 時間)、投与後 1、2、3、4、5、6、7、9、12、24、48 および 72 時間の計 13 時点で、前腕部皮静脈から 1 回につき 7mL の血液(血漿として 2.5mL 以上)をヘパリン加真空採血管で採取した。

採取した全ての血液を遠心分離し、得られた血漿中のパロキセチン(未変化体)濃度を LC/MS/MS 法により測定した(定量限界：0.050ng/mL)。得られた濃度値から下表に示す如く薬物動態学的パラメータを算出した。なお、下図には平均血漿中パロキセチン濃度推移を示す。

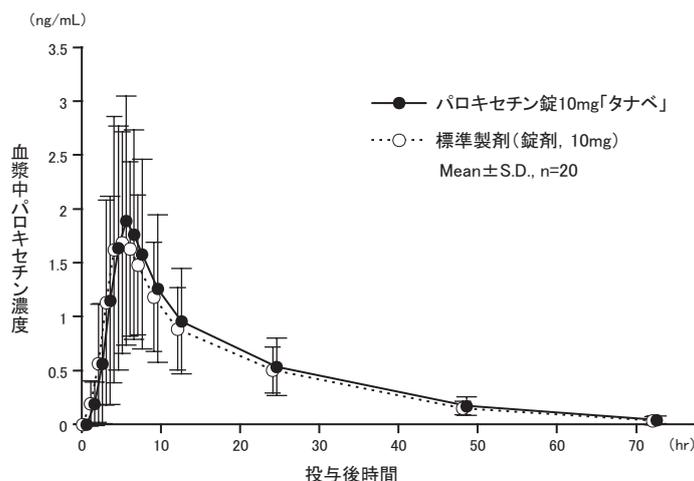
両剤の C_{max} および AUC_{0-72} の対数値の平均値の差の 90%信頼区間は、それぞれ $\log(0.9266) \sim \log(1.1842)$ および $\log(0.9321) \sim \log(1.1453)$ であり、いずれもガイドラインの基準である $\log(0.8) \sim \log(1.25)$ の範囲内であった。

以上の結果より、試験製剤と標準製剤は生物学的に同等であると判定した。

<パロキセチン錠 10mg 「タナベ」> (平均±標準偏差, n=20)

	パロキセチン錠 10mg 「タナベ」	標準製剤(錠剤, 10mg)
C_{max} (ng/mL)	1.976±1.168	1.860±1.135
AUC_{0-72} (ng・hr/mL)	34.084±17.917	31.823±13.907
$AUC_{0-\infty}$ (ng・hr/mL)	35.403±18.057	33.136±14.059
T_{max} (hr)	5.35±0.88	5.60±1.05
MRT (hr)	21.80±4.13	21.77±3.68
kel (hr ⁻¹)	0.0485±0.0082	0.0476±0.0076
$t_{1/2}$ (hr)	14.75±2.86	14.93±2.54

C_{max} ：最高血漿中濃度、 AUC ：濃度-時間曲線下面積、 T_{max} ：最高血漿中濃度到達時間、 MRT ：平均滞留時間、 kel ：消失速度定数、 $t_{1/2}$ ：消失半減期



パロキセチン錠 5mg「タナベ」

パロキセチン錠 5mg「タナベ」について、その処方を「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」(薬食審査発第 1124004 号：平成 18 年 11 月 24 日)「第 3 章. 1. 製剤の処方変更水準」に基づき、ヒトを対象とした生物学的同等性試験により先発医薬品との同等性が確認されているパロキセチン錠 10mg「タナベ」の処方と比較したところ、B 水準であった。よって、「第 3 章. 2. 要求される試験 B 水準」に従い、パロキセチン錠 10mg「タナベ」を標準製剤として溶出試験を実施した。

その結果、パロキセチン錠 5mg「タナベ」は標準製剤との間で溶出挙動が同等と判定されたため^{*1)}、両製剤は生物学的に同等であると判断した。

*1) 社内資料：パロキセチン錠の溶出挙動に関わる資料